

特集

放送とネット同時配信を 考える論点

ローカル局の展望を描くために

地上デジタル放送移行に次ぐ大きな転換を迎えている放送事業者、とりわけローカル民放局は「ネット同時配信」という変化の波をどう受け止めるかの課題に直面する。そこで今後の議論を意味あるものにするいくつかの論点を整理する。

[構成]

- 吉田真人 総務省大臣官房審議官インタビュー：「放送事業を取り巻く要因と課題をどう考えるか」
- radikoを考案実用化した関西大学三浦教授に聞く：「日本にはradikoがある」
- 資料：NHK同時配信「試験的提供B」と「見逃し配信検証実験」の結果
- 鼎談：塚本幹夫ワイズ・メディア × 高瀬徹朗本誌レポーター × 吉井勇編集部
- 同時配信展望レポート：サイバーエージェント「AbemaTV」、NTTぶららIPマルチキャスト放送「ひかりTV」、東京MX「エムキャスト」、フジテレビ「ONE/TWO/NEXTsmart」
- 提案コーナー：Jストリーム

総務省 吉田大臣官房審議官に聞く

放送事業を取り巻く要因と 課題をどう考えるか

災害時の情報提供、スマホの席捲、モバイルの大容量化など、放送事業者は時代の波にもがいている。こうした放送事業を取り巻く要因と今後の課題について、総務省大臣官房審議官の吉田真人氏に話を聞いた。(構成・写真：古山智恵・本誌編集部)



吉田真人
総務省 大臣官房審議官
(放送行政担当)

放送メディアが担う社会的機能

—— 2020年に向けた4K・8Kロードマップ
における当面の課題からお尋ねします。

吉田 関係者の協力もあって、ロードマップに沿って現時点まで順調に進んできています。4K・8K放送は地上デジタル放送への移行のように制度的な強制ではなく、視聴者

が選択するプレミアムなサービスですから、見たい人が見たい時に円滑に視聴できる環境が整っていることが大切です。そのために正確な情報提供が必須になります。例えば、市